

2018年度物流合理化賞



2018年6月29日

2018年度物流合理化賞

第32回目を迎えた全日本物流改善事例大会は、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会と一般社団法人日本物流資格士会の共催のもと、2018年5月15日（火）・16日（水）の2日間、東京都千代田区・御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにおいて、述べ458名の参加者を得て開催された。

ひとつの作業所（現場）で完結する、小集団が対象の「物流業務部門」（物流センター等での現場改善）、複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象の「物流管理部門」（運営・管理部門での改善）の2部門に分けて改善事例の募集を行い、応募事例の中から選考された優秀事例25テーマの発表が行われた。

全日本物流改善事例大会で発表された優秀事例については、「現状把握」「改善企画」「改善実行」「評価・定着」「成果」「表現力」の視点から厳正なる審査を行い、物流合理化賞を決定している。

2018年度は、以下のとおり物流合理化賞2件、物流合理化努力賞6件、全日本物流改善事例大会 実行委員特別賞1件が決定した。

1. 2018年度物流合理化賞（2件）

〈物流業務部門〉

● 受賞企業：コーセル株式会社

受賞事例：3PLパートナー会社のYK（やりにくい・気を使う）作業をなくそう！

出荷梱包箱数の削減をするべく、3PLパートナー企業を巻き込んで倉庫内作業の改善に乗り出した。ウェアラブルカメラを用いて作業を細かく分析することで作業の問題点を明確化させ、YK（やりにくい・気を使う）作業の解消に向け様々な施策を進めた。その結果、作業工数が大幅に削減され多能工化が進むとともに、出荷梱包箱数の削減により年間1,400万円のコスト削減を実現した。

● 受賞企業：東芝ロジスティクス株式会社

受賞事例：重量物取り扱い職場における女性活躍推進～女性からの視点による働きやすい職場作り～

取り扱い製品が重量物であることや機材に関する資格保有者等の多くが男性であったため、性別で役割分担が発生し、双方の業務進捗の違いにより作業の停滞が発生していた。そこで、女性でも重量物の梱包ができるように門型クレーンを設置し教育訓練を実施し、各種資格取得や多能工化を進め作業の停滞を大幅に削減した。これにより、女性も率先して業務を遂行できる働きやすい環境となった。

2. 2018年度物流合理化努力賞（6件）

〈物流業務部門〉

● 受賞企業：株式会社オカムラ物流

受賞事例：入出荷作業時間の短縮による収益改善

出来高制の荷役収入方式に変更となったことで、従来の作業効率では利益が出せず、物流センターの損益は赤字が続いていた。そこで、現場担当者と改善担当者が一体となって、出庫の品揃え進捗と積み込み車両の入門時間を同期化させる取り組みに着手した。その結果、物流センター全体で10.4%のコスト削減効果を生み出すとともに、出荷車両の待機時間削減に成功した。

〈物流管理部門〉

● 受賞企業：株式会社おおさか協同物流センター

株式会社流通サービス

受賞事例：深夜作業削減への取り組みを通じた荷主・3PL・納品企業のWIN-WINを実現した作業改善とSCM改善

22時以降の作業割合が40%を超え、派遣社員の作業が多いことから、今後の労働力不足が懸念された。そこで、荷主・3PL企業・納品企業が合同で改善に取り組んだ。希望入荷時間計画の策定やセンター内での搬送スケジュール・保管エリア・作業の改善の実施と合わせて、互いにメリットの有るSCM改善を進めた結果、22時以降の作業を大幅に削減することに成功した。

●受賞企業：株式会社カスミ

受賞事例：カスミ事務大部屋化方式～無くせないか・減らせないか・変わらないかをキーワードにした事務視点の真因改善

前後工程の接点である事務担当者の視点から問題を発見し、全体最適で効率化を目指すカスミ大部屋化方式による改善活動で、配送高速料金集計事務と容器貸出請求事務の改善に取り組んだ。お客様との情報共有の実施から始め、ドライバーからのヒアリングや受払台帳の定期確認等を行い、ミス発生原因をパターン化し標準化することで、月間事務作業を178.4MH削減することに成功した。

●受賞企業：コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

受賞事例：指差呼称スタンダードポイント策定で安全・品質向上～3PL社との協働政策の推進～

物流トラブルのなかでフォークリフトの操作ミスによる製品破損が多くを占めていた。業務委託をしている6社の3PL社と協議を行い、いつ・どのポイントで指差呼称を実施するかを明確にした全社共通の“指差呼称スタンダードポイント”を策定し、3PL社と一緒に取り組んだ結果、リフト操作ミスによるトラブル件数を50%削減、安全・品質への意識向上を実現した。

●受賞企業：ジャトコ株式会社

受賞事例：海外調達物流における原低活動の推進

海外拠点の生産比率増加に伴い、全社の生産台数推移と比較し、海外調達物流費は加速度的に増加する見込みとなっていた。そこで、費用発生メカニズムを確認し、2つの1次要因（コンテナ本数、料率）を削減するため、ベンチマーキング・輸送方式変更や荷量データの取得と積載率算出の月例化を各国の拠点と協力して実施することにより、輸入輸送費を年間9%削減を達成する見込みとなった。

●受賞企業：古河物流株式会社

受賞事例：需給最適化を目的としたバリューチェーン構築

光ケーブル製造の生産性向上のため、バリューチェーンの一部である調達物流改善に着手した。在庫削減と配車効率化を同時に達成するための管理システムを構築することで、調達品の小ロット化で在庫を57%削減し、かんぱん化でリードタイムを実質0日まで短縮した上で、輸送積載率も改善し物流コストを36%削減した。同時に、受発注処理自動化により管理業務の負荷も低減された。

3. 全日本物流改善事例大会 実行委員特別賞（1件）

〈物流管理部門〉

●受賞企業：株式会社ホームロジスティクス

受賞事例：仮設型託児を利用した労働力確保

現場の人員不足により、繁忙期は計画通りに作業が終了できず遅延が発生していた。そこで、労働力の確保に向けた同業他社との採用差別化策として、通勤圏に待機児童を持つ親が多いことから物流センター内に託児施設（仮設型託児）を設置し、新規従業員の採用活動を実施した。これにより、採用開始から面接実施までの所要日数が大幅に削減され、課題であった新規従業員の採用に成功した。

過去受賞事例一覧（第31回）

第30回(2016年度)以前の受賞事例につきましては、当協会HP(www.logistics.or.jp/propulsion/list/rationalization.html)をご覧ください

物流合理化賞

〈物流業務部門〉

- アドバンスト・ロジスティクス・ソリューションズ(株)「動作分析ノウハウを活用したムダ作業削減による生産性の改善」

〈物流管理部門〉

- 本田技研工業(株)「強化カートンケース開発による廃棄物削減」

物流合理化努力賞

〈物流業務部門〉

- 日昭産業(株)「「渋滞学」活用によるピッキング・アソート作業の効率化」
- (株)ロジスティクス・ネットワーク「配送ドライバーの労務改善による効果」
- ロジスティクスオペレーションサービス(株)「改バリアフリーな受入れ業務 健常者と障がい者の壁を無くす」

〈物流管理部門〉

- (株)スバルロジスティクス「CKD海上輸送コンテナ容積充填率向上へ向けた総合的取組み」
- (株)ホームロジスティクス「スワップボディコンテナ導入による車両の安定確保と輸送コスト削減」

全日本物流改善事例大会2019

発表者募集

全日本物流改善事例大会は、物流現場で取組まれている改善事例の発表を通して、効率化の手がかりや、ノウハウを物流の実務者同士が共有し合う場です。
身近な工夫など、改善の成果を気軽にご発表ください。
特に優れた内容には、選考委員会で審査のうえ「物流合理化賞」が贈られます。
全国の物流現場で改善に取り組んでおられる方々からの積極的な応募をお待ちしております。

開催日：2019年5月14日（火）・15日（水）（予定）

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）

【応募内容】

身近に行われている生産性、物流品質、安全性、顧客サービス向上やコスト低減、環境負荷軽減を実現した事例はありませんか。

《例えばこんな事例はありませんか》

I. 物流業務部門（物流センター等での現場改善）

- ・輸配送（トラック運行効率の向上、積載率・回転率の向上等）
- ・倉庫内作業（入出庫、保管、ピッキング、検品、流通加工の改善、庫内レイアウトの改善等）
- ・荷役（荷役機器、荷役方式の改善）
- ・包装（パレット、容器の改善、緩衝材の改善）
- ・流通加工（方式、工程の改善）
- ・CSの向上（クレームの減少）
- ・作業環境の改善
- ・教育訓練によるモラル向上

II. 物流管理部門（運営・管理部門での改善）

- ・受発注管理（送り状レス化等）
- ・輸配送管理（計画配車の導入等）
- ・在庫管理（在庫圧縮等）
- ・情報（納期回答の高速化、情報システム・情報端末などの改善、ICタグの利用）
- ・コンプライアンス（改正省エネ法対応、改正道交法対応、安全運行管理体制の取り組み事例）
- ・グリーン物流（共同配送やパートナーシップの事例）
- ・環境負荷軽減の取り組み
- ・リスクマネジメント（BCM、BCP、マニュアル整備等）

※自社製品のPR、企業PRはご遠慮ください。

※応募締切日：2019年1月中旬（予定）

*応募方法等については下記事務局までお問い合わせください。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所
〒105-0022 東京都港区海岸 1-15-1 スズエベイディウム 3F
TEL：03-3436-3191 E-mail：kaizenjirei@logistics.or.jp